

平成30年度 御所野地域包括支援センター多職種連携研修

第2回

『秋田県認知症疾患医療センターと秋田市認知症初期集中支援チーム について～現状と今後の連携～』



多職種連携研修とは

地域包括ケアは急性期ケアから慢性期ケアまでを医療・介護等の他職種チームでアプローチする、地域における臨床レベルの統合ケアが鍵です。特に医療・介護ニーズが高い高齢期の暮らしを支えるには予防的ケアが欠かせません。

当センターは医療・介護の当事者が領域や所属を越えて出会い、協働に必要な視点や知識を得るための気軽な場として、シリーズ研修を企画開催しています。

今年度のシリーズ研修2回目。7/31に秋田緑ヶ丘病院の精神保健福祉士・渡部さんより、秋田緑ヶ丘病院秋田県認知症疾患医療センター（以後、センター）と秋田市認知症初期集中支援チームについてお話して頂きました。当日は総勢50名が参加し、盛況に終わることができました。

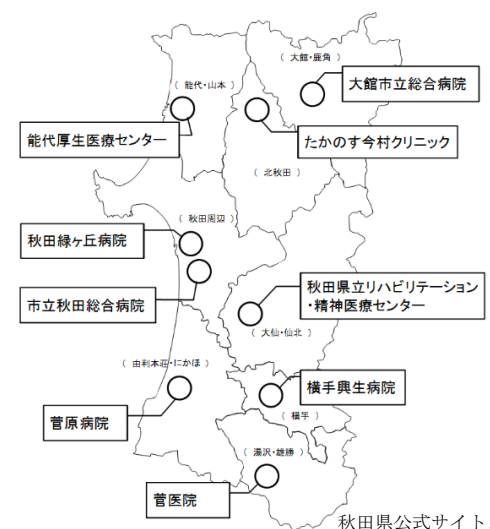


秋田緑ヶ丘病院秋田県認知症疾患医療センターとは

地域における認知症の進行予防から地域生活の維持まで認知症の鑑別診断、専門医療の相談等の対応、地域保健医療・介護関係者への研修等を行う。

センターは、平成27年10月に開設し、昨年度までの相談総件数は1,169件。全体の約50%が家族からの相談。専門機関からの相談では地域包括からの割合が高い。相談内容は鑑別診断に関することが50%以上。新患者は高齢者が多い（全体の91%。内80%が後期高齢者）が、65歳未満の方の来院・認知症診断されるケースも一定数あり、軽視はできない。診断内訳ではアルツハイマー型（43%）、レビー小体型、脳血管性と続くが、軽度認知障害（認知症疑い含む）と診断される方も26%おり、予防・早期介入が重要になるだろう。早めの受診・対応はQOLを担保する上でも重要。

○ 秋田県認知症疾患医療センター 配置図 (H30.3.1現在)



秋田緑ヶ丘病院 秋田県認知症疾患医療センターの受診までの流れ



- センター長は基本断らない！
- 診察まで時間が掛からない！（概ね1週間以内）
- 紹介状がなくても受診可

①電話or来院で相談

③診察日の日程調整

②相談受付票提出
／センター長報告

④診察

※BPSDが強い場合、緊急性が高い場合には、精神科と連携して対応。

秋田市認知症初期集中支援チームとは

認知症が疑われる人や認知症の人、及びその家族を訪問し、アセスメント、家族支援等の初期支援を包括的・集中的に行い、自立生活のサポートを行うチーム。秋田市は緑ヶ丘病院へチームを委託。認知症医療疾患センター内スタッフ5名（内、医師1名）で稼働。チームの支援は概ね最長6か月。

これまで9件の対応（終結4、継続3、該当なし2）をしている。

対 象

- ・秋田市内に住所を有し在宅で生活する40歳以上の者
- ・認知症が疑われるもの又は認知症であるもので、**医療サービスもしくは介護サービスを受けていない者**又はそれらを**中断している者**（認知症疾患の臨床診断を受けていない、等要件あり）

※医療サービス又は介護サービスを受けている者でも、**認知症の行動・心理症状が顕著**であるものは対象



- チームへの相談窓口（入り口）は、**地域包括支援センター**
- 基本、支援介入には本人・家族の同意が前提になる
- チーム員会議には、**認知症地域支援推進員**が出席（連携）
- 医療機関（認知症医療疾患センター）がチーム運用している（特徴／強み）



①地域包括で相談受理
(入り口)

②秋田市長寿福祉課へ情報提供
(判断)

③チーム員会議
(支援方針検討/連携)

④初回訪問へ

アンケート結果

- 回答者：37名（回答率：82.2%）
- 研修内容について：参考になった21名、まあまあ参考になった14名、あまり参考にならなかった2名、参考にならなかった0名
- 理由：相談方法が良く理解できた。事例と類似するケースを支援中で、是非家族にチームへの相談を提案したい。（**ケアマネ**）1つの事例にたくさんの職種が集中して携わっていくというのが、すごいと感じた。施設内でも多くの職種がいるので、身近なところでも連携を意識していきたい。（**介護士**）etc・・・
- 意見・要望：事例について、時間を掛けて学びたい。困難事例に対し、具体的に学べる機会をつくって欲しい。etc・・・

※貴重なご意見、ありがとうございました。今後の参考に致します。次回は9 / 21（金）です。